

【9】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	法医学 (Legal Medicine)
研究指導教員	向 井 敏 二
研究・教育の概略	法医学とは法律上問題となる医学的事項を検査・考究し、よって問題点を解明することにより、法律的な解決をとおして社会に貢献することを目的とする医学である。 一般に法医学は犯罪に関係した死体のみを対象としているように思われがちである。たしかに、過去における法医学の役割は社会の安全と秩序の維持に重点が置かれてきたため、ややもすれば犯罪死体の死因や凶器の解明のみがクローズアップされがちであった。しかし、現代社会は「集団」から「個」の時代へと移り変わり、その要求は基本的人権や健康・福祉の向上へと大きな変化を遂げてきた。ふと我々の周りを見渡せば、法医学が対象とすべき「法律上問題となる医学的事項」が数多く存在していることに気付くはずである。近年で言えば、社会問題化した医療関連死問題をはじめとして、児童・高齢者・配偶者に対する虐待、蔓延する薬物の乱用と犯罪使用、DNA 多型等を用いた個人識別、交通事故や労災等に絡む損害賠償、乳幼児突然死と保護・管理責任、原因不明の内因性突然死、高齢者の孤独死と増え続ける自殺、臓器移植や終末期医療の医療倫理問題等すべてが法律と医学の両面から解決すべき事柄なのである。実践科学としての法医学は、そうした時代性を的確に読み取り、多様化する現代社会の要求に対応して、研究・解決していく姿勢が肝要なのである。 当教室では、現在そして未来における法医学の存在意義を、犯罪死体にまつわる古典的裁判医科学領域だけでなく広く臨床一般にも確立すべく、いわゆる「臨床法医学」の実践・研究を推進している。しかし一方、現在我が国で問題となっている死因究明制度の中核を担うのが一般臨床医であることを踏まえれば、法医学的判断力を有する臨床医育成もまた大学院教育の大きな責務である。こうした観点から、法医学コースでは将来を担う医学研究者もしくは医療人として、法医学視点から問題解決できる基礎的知識・技能と公正な態度の修得を支援し、広い意味で法医学の進歩に貢献できる人材育成を目指した大学院教育を提供する。大学院生各自の将来構想に相応し、その到達目標は多様であるべきなので、そうした点に配慮しつつ各自の研究テーマおよび重点教育箇所を設定する。
研究項目	1. 乳幼児突然死症候群の病態解明 2. 児童虐待に対する実践科学的アプローチ 3. DNA 多型の個人識別への応用 4. 内因性急死の病態解明 5. 死後画像診断法の確立
準備学習(予習・復習)	* 授業の最初に前の授業の小テストを行う。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	法医学概論		必修/選択	必修
担当教員	向井 敏二	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(前期)	履修年次	1年	
テーマと目的	法医学の概念および対象とする各分野について学び理解する。			
講義計画	法医学に関連する事項につき、現代社会で発生する各種事件例と関連付けて網羅的に講義する。			
達成目標	1. 現代社会における法医学の必要性について説明することができる。 2. 死体解剖に関連する古典的領域だけでなく、生体を対象とする臨床法医学領域についても説明することができる。			
教科書・参考書	Knight's Forensic Pathology, 3rd ed, Arnold, 2004.			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	授業への出席状況・態度およびレポート提出等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	法医学発展の歴史		1	
2	諸外国の法医学		2	
3	社会医学としての法医学		3	
4	死因究明における法医学の役割		4	
5	死体検案の仕方(1)		5	
6	死体検案の仕方(2)		6	
7	法医解剖		7	
8	臨床医に必要な法医学的観点(1)		8	
9	臨床医に必要な法医学的観点(2)		9	
10	刑事裁判と法医学(1)		10	
11	刑事裁判と法医学(2)		11	
12	民事裁判と法医学(1)		12	
13	民事裁判と法医学(2)		13	
14	関連法規(1)		14	
15	関連法規(2)		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	個人識別学概論		必修/選択	必修
担当教員	千葉 正悦	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(後期)	履修年次	2年	
テーマと目的	各種形態学・遺伝学的個人識別法を学び理解する。			
講義計画	遺伝標識(DNA多型、血液型)や硬組織(骨・歯牙)の形態学的特徴を用いた各種個人識別法を概説する。			
達成目標	1. 各種個人識別法の原理について説明できる。 2. 遺伝標識の応用とその限界について概ね説明できる。			
教科書・参考書	Introduction to Forensic Sciences, 2nd ed, CRC Press, 1997. Forensic DNA typing, Academic Press, 2001.			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	授業への出席状況・態度およびレポート提出等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	個人識別の概要
2			2	骨による個人識別(1)
3			3	骨による個人識別(2)
4			4	骨による個人識別(3)
5			5	歯牙による個人識別(1)
6			6	歯牙による個人識別(2)
7			7	指掌紋による個人識別
8			8	血液型による個人識別(1)
9			9	血液型による個人識別(2)
10			10	血液型による個人識別(3)
11			11	DNA 多型による個人識別(1)
12			12	DNA 多型による個人識別(2)
13			13	DNA 多型による個人識別(3)
14			14	個人識別の応用(1)
15			15	個人識別の応用(2)

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	法中毒学概論		必修/選択	必修
担当教員	千葉 正悦	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(前期)	履修年次	2年	
テーマと目的	代表的な薬毒物による中毒病態および死体所見について学び理解する。			
講義計画	1. 教科書および関連文献の抄読・解説 2. 個別中毒事例の病態・死体所見・薬物検査結果を供覧し、理解を深める。			
達成目標	代表的な薬毒物の病態および死体所見について説明することができる。			
教科書・参考書	Principles of Forensic Toxicology, 2nd ed, AACC press, 2003. Drugs and Poisons in Humans: A Hand Book of Practical Analysis, Springer, 2005.			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	授業への出席状況・態度およびレポート提出等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	法中毒学総論		1	
2	試料の特殊性と連続性		2	
3	簡易スクリーニング法		3	
4	確認検査と定量(1)		4	
5	確認検査と定量(2)		5	
6	各論(1) アルコール		6	
7	各論(2) 一酸化炭素		7	
8	各論(3) 乱用薬物		8	
9	各論(4) 揮発性物質		9	
10	各論(5) 医薬品1		10	
11	各論(6) 医薬品2		11	
12	各論(7) 農薬		12	
13	各論(8) 日用品		13	
14	各論(9) 自然毒(植物毒)		14	
15	各論(10) 自然毒(動物毒)		15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	臨床法医学概論		必修/選択	必修
担当教員	向井 敏二	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(後期)	履修年次	2年	
テーマと目的	生体を対象とした法医学の新たな実践領域について学び理解する。			
講義計画	1. 家庭内虐待(児童・高齢者・DV)について概説・事例供覧し、理解を深める。 2. 医療事故・過誤について概説・事例供覧し、理解を深める。			
達成目標	1. 家庭内虐待(児童、高齢者、DV)に対する法医学の役割を理解し、実践できる。 2. 医療事故・過誤の現状を説明でき、事故原因と対策の問題点を指摘できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	授業への出席状況・態度およびレポート提出等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1			1	児童虐待概説
2			2	被虐待児診察時の注意点
3			3	事例検討(1)
4			4	事例検討(2)
5			5	高齢者虐待概説
6			6	事例検討(1)
7			7	事例検討(2)
8			8	DV 概説
9			9	事例検討
10			10	医療事故と医療過誤
11			11	事例検討(1)
12			12	事例検討(2)
13			13	事例検討(3)
14			14	事例検討(4)
15			15	事例検討(5)

講義担当者承認 Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	法医病理学総論		必修/選択	必修
担当教員	呂 彩子	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	各種内因性および外因性急死体の特徴所見を学び、実検体からの所見採取法を習得する。			
講義計画	1. 教科書および関連文献の抄読・解説。 2. 肉眼所見および組織所見の採取法について実技を交えて解説する。			
達成目標	1. 各種(内因性・外因性)死体の特徴所見を列挙することができる。 2. 肉眼所見および組織所見を採取することができる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	死体現象(1)		1	異常環境下での障害と所見(1)
2	死体現象(2)		2	異常環境下での障害と所見(2)
3	損傷の所見(1)		3	胎・嬰兒死体の所見(1)
4	損傷の所見(2)		4	胎・嬰兒死体の所見(2)
5	損傷の所見(3)		5	内因性急死(1)
6	損傷の所見(4)		6	内因性急死(2)
7	損傷の所見(5)		7	内因性急死(3)
8	窒息の所見(1)		8	内因性急死(4)
9	窒息の所見(2)		9	臓器所見(1)
10	窒息の所見(3)		10	臓器所見(2)
11	焼死体の所見(1)		11	臓器所見(3)
12	焼死体の所見(2)		12	臓器所見(4)
13	水中死体の所見(1)		13	死体検案書の作成(1)
14	水中死体の所見(2)		14	死体検案書の作成(2)
15	前期まとめ		15	後期まとめ

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	法医学		
講義題目	法医病理学各論		必修/選択	必修	
担当教員	呂 彩子	担当教員連絡先	内線 3556		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	死亡状況と病理学的所見をもとに総合的に死因判定する手法を学ぶ。				
講義計画	1. 教科書および関連文献の抄読・解説 2. 教室で扱った鑑定事例を対象として死因判定手法を詳説する。				
達成目標	剖検死体から有意な所見を採取でき、これをもとに死因を判定することができる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間				
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	外因死事例の検討(1)		1	医療過誤事例の検討(1)	
2	外因死事例の検討(2)		2	医療過誤事例の検討(2)	
3	外因死事例の検討(3)		3	医療過誤事例の検討(3)	
4	外因死事例の検討(4)		4	医療過誤事例の検討(4)	
5	外因死事例の検討(5)		5	医療過誤事例の検討(5)	
6	内因死事例の検討(1)		6	その他の事例の検討(1)	
7	内因死事例の検討(2)		7	その他の事例の検討(2)	
8	内因死事例の検討(3)		8	その他の事例の検討(3)	
9	内因死事例の検討(4)		9	その他の事例の検討(4)	
10	内因死事例の検討(5)		10	その他の事例の検討(5)	
11	内・外因複合事例の検討(1)		11	鑑定書の作成(1)	
12	内・外因複合事例の検討(2)		12	鑑定書の作成(2)	
13	内・外因複合事例の検討(3)		13	鑑定書の作成(3)	
14	内・外因複合事例の検討(4)		14	鑑定書の作成(4)	
15	内・外因複合事例の検討(5)		15	まとめ	

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	法中毒学実習		必修/選択	必修
担当教員	千葉 正悦	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(前期)	履修年次	2年	
テーマと目的	ヒトに有害な各種中毒起因物質のスクリーニング法および定性・定量法を習得する。			
講義計画	検体の保存法、抽出法、各種スクリーニング法および測定・分析機器の原理を講義する。生体および死体からの試料を用いて、各種中毒起因物質の定性・定量を実施する。			
達成目標	1. 各種測定・分析機器の原理を理解し、説明できる。 2. 検体の種別および対象とする中毒起因物質に応じた分析手法を選択できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	検査試料の取り扱い		1	
2	簡易スクリーニング法		2	
3	分析試料調製法(抽出法)		3	
4	機器分析(1)		4	
5	機器分析(2)		5	
6	定量結果の信頼性		6	
7	報告書作成法		7	
8	分析実習(1)		8	
9	分析実習(2)		9	
10	分析実習(3)		10	
11	分析実習(4)		11	
12	分析実習(5)		12	
13	分析実習(6)		13	
14	分析実習(7)		14	
15	分析実習(8)		15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	個人識別学実習		必修/選択	必修
担当教員	千葉 正悦	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(後期)	履修年次	2年	
テーマと目的	個人同定を目的とした形態学・遺伝学的な各種個人識別法を習得する。			
講義計画	1. 演習により形態学的(骨・歯牙等)個人識別法を習得する。 2. 演習により遺伝学的(DNA多型、血液型)個人識別法を習得する。			
達成目標	1. 形態学・遺伝学的な個人識別法を演習し、実際の個人同定に応用できる。 2. 事例に応じた個人識別法を選択し、その結果を解釈することができる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	法医学的試料の取り扱い(1)
2			2	法医学的試料の取り扱い(2)
3			3	骨による個人識別法(1)
4			4	骨による個人識別法(2)
5			5	骨による個人識別法(3)
6			6	歯牙による個人識別法
7			7	指掌紋による個人識別法
8			8	法医学的血液型判定法(1)
9			9	法医学的血液型判定法(2)
10			10	法医学的血液型判定法(3)
11			11	DNA 多型判定法(1)
12			12	DNA 多型判定法(2)
13			13	DNA 多型判定法(3)
14			14	DNA 多型判定法(4)
15			15	DNA 多型判定法(5)

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	救急初期診療の診療指針 検査		必修/選択	必修
担当教員	榊井良裕	担当教員連絡先	内線	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急初療における必要な検査とその意義について学ぶ			
講義計画	救急患者の各種病態に応じた最低限必要される検査について講義する 実施された検査結果の意義について			
達成目標	さまざまな主訴で来院する救急患者について、必要な検査を指示、実施できる 実施した検査結果について判断し、病態理解の一助とし得る			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	救急初期診療における検査について、理解し実施することが目的である。救急では緊急性と重症度の観点から、検査は必要最低限、かつ必須検査を落としてはならない。これを理解する。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1			1	
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6			6	
7			7	
8			8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	集中治療医学 総論		必修/選択	必修
担当教員	榊井良裕	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年(2 年でも可)	
テーマと目的	集中治療学の意義と特徴について学ぶ			
講義計画	主要な臓器や系の急性機能不全を総合的・集中的に治療する医学体系を学ぶ 個々の臓器・系の機能不全について学ぶ			
達成目標	個々の臓器・系の機能不全を認識し、横断的・総合的な理解ができる 疾患別・臓器別にとらわれない横断的・総合的な病態の把握と治療ができる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	臓器不全、多臓器不全について学ぶ。 集中治療医学などを参照。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1			1	
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6			6	
7			7	
8			8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	組織病理学概論(I)		必修/選択	必修
担当教員	高木 正之	担当教員連絡先	内線 3140	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	組織形態および超微形態の採取方法の習得と疾患特異的組織および電子顕微鏡所見の理解			
講義計画	組織標本の取り扱いおよび電子顕微鏡標本の採取方法について示し、正常組織および超微形態像と全身諸臓器に発生するあらゆる疾患の疾患特異的な組織像および超微形態像を詳述する。			
達成目標	1. 全身諸臓器の正常組織像および正常電子顕微鏡像を理解する 2. 全身諸臓器に発生する疾患の組織像および電子顕微鏡像を理解する			
教科書・参考書	1. Rosai and Ackerman's Surgical Pathology (Mosby, 2004) 2. Ultrastructural Pathology of the Cell and Matrix (Butterworth-Heinemann, 1997)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席および講義内での発表や受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	組織病理学に必要な組織学(1)	1	肝胆道系の組織病理学(1)	
2	組織病理学に必要な組織学(2)	2	肝胆道系の組織病理学(2)	
3	口腔組織病理学(1)	3	肝胆道系の組織病理学(3)	
4	口腔組織病理学(2)	4	肝胆道系の組織病理学(4)	
5	上部消化管組織病理学(1)	5	膵の組織病理学(1)	
6	上部消化管組織病理学(2)	6	膵の組織病理学(2)	
7	上部消化管組織病理学(3)	7	上気道の組織病理学(1)	
8	上部消化管組織病理学(4)	8	上気道の組織病理学(2)	
9	上部消化管組織病理学(5)	9	肺の組織病理学(1)	
10	下部消化管組織病理学(1)	10	肺の組織病理学(2)	
11	下部消化管組織病理学(2)	11	肺の組織病理学(3)	
12	下部消化管組織病理学(3)	12	肺の組織病理学(4)	
13	下部消化管組織病理学(4)	13	縦隔の組織病理学(1)	
14	下部消化管組織病理学(5)	14	縦隔の組織病理学(2)	
15	前期総合討論と発表	15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	組織病理学概論(II)		必修/選択	必修
担当教員	干川晶弘	担当教員連絡先	内線 3140	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	組織形態および超微形態の採取方法の習得と疾患特異的組織および電子顕微鏡所見の理解			
講義計画	組織標本の取り扱いおよび電子顕微鏡標本の採取方法について示し、正常組織および超微形態像と全身諸臓器に発生するあらゆる疾患の疾患特異的な組織像および超微形態像を詳述する。			
達成目標	1. 全身諸臓器の正常組織像および正常電子顕微鏡像を理解する 2. 全身諸臓器に発生する疾患の組織像および電子顕微鏡像を理解する			
教科書・参考書	1. Rosai and Ackerman's Surgical Pathology (Mosby, 2004) 2. Ultrastructural Pathology of the Cell and Matrix (Butterworth-Heinemann, 1997)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席および講義内での発表や受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	頭頸部の組織病理学(1)		1	前立腺の組織病理学(1)
2	頭頸部の組織病理学(2)		2	前立腺の組織病理学(2)
3	頭頸部の組織病理学(3)		3	精巣の組織病理学(1)
4	中枢神経の組織病理学(1)		4	精巣の組織病理学(2)
5	中枢神経の組織病理学(2)		5	卵巣・卵管の組織病理学(1)
6	中枢神経の組織病理学(3)		6	卵巣・卵管の組織病理学(2)
7	中枢神経の組織病理学(4)		7	子宮・膣の組織病理学(1)
8	中枢神経の組織病理学(5)		8	子宮・膣の組織病理学(2)
9	腎・尿管の組織病理学(1)		9	乳腺の組織病理学(1)
10	腎・尿管の組織病理学(2)		10	乳腺の組織病理学(2)
11	腎・尿管の組織病理学(3)		11	内分泌臓器の組織病理学(1)
12	膀胱・尿道の組織病理学(1)		12	内分泌臓器の組織病理学(2)
13	膀胱・尿道の組織病理学(2)		13	骨・軟部組織の組織病理学(1)
14	膀胱・尿道の組織病理学(3)		14	骨・軟部組織の組織病理学(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	組織病理概論実習(I)		必修/選択	必修
担当教員	高木 正之	担当教員連絡先	内線 3140	
単位数	1 単位(前期・後期)	履修年次	1 年	
テーマと目的	組織形態および超微形態の採取方法の習得と疾患特異的組織および電子顕微鏡所見の理解			
講義計画	組織標本の取り扱いおよび電子顕微鏡標本の採取方法について示し、正常組織および超微形態像と全身諸臓器に発生するあらゆる疾患の疾患特異的な組織像および超微形態像を詳述する。			
達成目標	1. 全身諸臓器の正常組織像および正常電子顕微鏡像を理解する 2. 全身諸臓器に発生する疾患の組織像および電子顕微鏡像を理解する			
教科書・参考書	1. Rosai and Ackerman's Surgical Pathology (Mosby, 2004) 2. Ultrastructural Pathology of the Cell and Matrix (Butterworth-Heinemann, 1997)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席および講義内での発表や受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)	
1	腫瘍性病変の組織所見の採取方法(1)	1	口腔内腫瘍の病理組織像(1)	
2	腫瘍性病変の組織所見の採取方法(2)	2	口腔内腫瘍の病理組織像(2)	
3	腫瘍性病変の組織所見の採取方法(3)	3	食道腫瘍の病理組織像(1)	
4	腫瘍性病変の組織所見の採取方法(4)	4	食道腫瘍の病理組織像(2)	
5	炎症性病変の組織所見の採取方法(1)	5	胃・十二指腸潰瘍の病理組織像	
6	炎症性病変の組織所見の採取方法 2)	6	胃腫瘍の病理組織像(1)	
7	炎症性病変の組織所見の採取方法(3)	7	胃腫瘍の病理組織像(2)	
8	炎症性病変の組織所見の採取方法(4)	8	胃腫瘍の病理組織像(3)	
9	循環障害の組織所見の採取方法(1)	9	十二指腸腫瘍の病理組織像(1)	
10	循環障害の組織所見の採取方法(2)	10	十二指腸腫瘍の病理組織像(2)	
11	循環障害の組織所見の採取方法(3)	11	炎症性腸疾患の病理組織像(3)	
12	変性疾患の組織所見の採取方法(1)	12	大腸腫瘍の病理組織像(1)	
13	変性疾患の組織所見の採取方法(2)	13	大腸腫瘍の病理組織像(2)	
14	変性疾患の組織所見の採取方法(3)	14	大腸腫瘍の病理組織像(3)	
15	前期総合討論と発表	15	前期総合討論と発表	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	肉眼病理学概論(I)		必修/選択	必修
担当教員	高木 正之	担当教員連絡先	内線 3140	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	肉眼形態の採取方法の習得と疾患特異的肉眼所見の理解			
講義計画	臨床検体の取り扱い方法を示し、正常像と病変部の鑑別方法、全身諸臓器に発生するあらゆる疾患の肉眼像の特徴を詳述する。			
達成目標	1. 全身諸臓器の正常肉眼像とその臓器に発生する病変の肉眼像を理解する 2. 肉眼形態から組織学的検索に有用な部分を採取する方法を取得する			
教科書・参考書	1. Anderson's Pathology(Mosby, 2005) 2. Rosai and Ackerman's Surgical Pathology(Mosby, 2004)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席および講義内での発表や受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	病理診断学の歴史(1)		1	肝・胆道系の肉眼病理学(1)
2	病理診断学の歴史(2)		2	肝・胆道系の肉眼病理学(2)
3	肉眼病理学に必要な解剖学(1)		3	肝・胆道系の肉眼病理学(3)
4	肉眼病理学に必要な解剖学(2)		4	肝・胆道系の肉眼病理学(4)
5	肉眼形態学に必要な解剖学(3)		5	膵の肉眼病理学(1)
6	口腔肉眼病理学(1)		6	膵の肉眼病理学(2)
7	口腔肉眼病理学(2)		7	上気道の肉眼病理学(1)
8	上部消化管肉眼病理学(1)		8	上気道の肉眼病理学(2)
9	上部消化管肉眼病理学(2)		9	肺の肉眼病理学(1)
10	上部消化管肉眼病理学(3)		10	肺の肉眼病理学(2)
11	上部消化管肉眼病理学(4)		11	肺の肉眼病理学(3)
12	下部消化管肉眼病理学(1)		12	肺の肉眼病理学(4)
13	下部消化管肉眼病理学(2)		13	縦隔の肉眼病理学(1)
14	下部消化管肉眼病理学(3)		14	縦隔の肉眼病理学(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	オートプシー・イメージングと死因究明		必修/選択	選択
担当教員	呂 彩子	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(後期)	履修年次	2 年	
テーマと目的	画像診断技術を用いた死後死因究明法の現状と問題点を理解する。			
講義計画	オートプシー・イメージング関連の文献を抄読し、死因究明に用いる場合の意義と問題点について議論する。			
達成目標	オートプシー・イメージングの価値と問題点について説明することができる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1			1	死因究明制度の現状
2			2	死因究明に利用可能な画像診断機器の原理と基本
3			3	死体現象と画像診断(1)
4			4	死体現象と画像診断(2)
5			5	頭頸部の画像診断
6			6	胸部の画像診断
7			7	腹部の画像診断
8			8	骨軟部組織の画像診断
9			9	内因死事例の画像診断(1)
10			10	内因死事例の画像診断(2)
11			11	内因死事例の画像診断(3)
12			12	外因死事例の画像診断(1)
13			13	外因死事例の画像診断(2)
14			14	外因死事例の画像診断(3)
15			15	まとめ

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	わが国における裁判制度		必修/選択	選択
担当教員	向井 敏二	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(前期)	履修年次	2年	
テーマと目的	わが国における裁判制度をひろく学び、理解する。			
講義計画	1. わが国における裁判制度について、民事・刑事両面から概説する。 2. 医療過誤裁判例を抄読し、各判例における問題点を検討する。			
達成目標	わが国における裁判制度を説明でき、法医鑑定の重要性を理解する。			
教科書・参考書	刑事医療過誤（飯田英男他著 判例タイムス社）			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	刑事裁判制度		1	
2	刑事事件における法医鑑定の役割		2	
3	医療関連の刑事事件		3	
4	事例紹介(1)		4	
5	事例紹介(2)		5	
6	事例紹介(3)		6	
7	民事裁判制度		7	
8	医療事故と医療過誤		8	
9	事例検討(1)		9	
10	事例検討(2)		10	
11	事例検討(3)		11	
12	事例検討(4)		12	
13	事例検討(5)		13	
14	障害判定における医師の役割		14	
15	認知請求と法医鑑定		15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	交通事故損傷概論		必修/選択	選択
担当教員	向井 敏二	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	交通事故による各種受傷機序と損傷の特徴について理解する。			
講義計画	法医学教科書および下記資料をもとに交通事故の成傷機序を概説する。			
達成目標	1. 各種交通事故における特徴的損傷について説明できる。 2. 交通事故死体の損傷所見から事故様態を推定できる。			
教科書・参考書	交通科学研究資料(第1～49集) (交通科学協議会学術発表誌)			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)
1			1	交通事故の現状
2			2	交通事故による問題点
3			3	交通事故における法医学の役割
4			4	特徴的損傷(1)
5			5	特徴的損傷(2)
6			6	特徴的損傷(3)
7			7	特徴的損傷(4)
8			8	成傷機序(1)
9			9	成傷機序(2)
10			10	内因性疾患と交通事故(1)
11			11	内因性疾患と交通事故(2)
12			12	症例による事故様態の推定(1)
13			13	症例による事故様態の推定(2)
14			14	症例による事故様態の推定(3)
15			15	まとめ

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	法医学		
講義題目	乳幼児突然死概論		必修/選択	選択	
担当教員	向井 敏二	担当教員連絡先	内線 3556		
単位数	1単位(前期)	履修年次	1年		
テーマと目的	乳幼児突然死の原因論と法的問題点を理解する。				
講義計画	教科書および関連文献の抄読・解説				
達成目標	1. 乳幼児突然死の各種原因と、これらにまつわる法的諸問題を説明できる。 2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)の原因論を説明できる。				
教科書・参考書	SIDSの手引 (仁志田博司編・東京医学社)				
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間				
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓢ)
1	乳幼児突然死の原因(1)		1		
2	乳幼児突然死の原因(2)		2		
3	SIDS(1)		3		
4	SIDS(2)		4		
5	SIDS(3)		5		
6	SIDS(4)		6		
7	SIDSの診断		7		
8	SIDSと窒息(1)		8		
9	SIDSと窒息(2)		9		
10	事例検討(1)		10		
11	事例検討(2)		11		
12	事例検討(3)		12		
13	事例検討(4)		13		
14	事例検討(5)		14		
15	まとめ		15		

講義担当者承認 Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	法医学	
講義題目	生物・化学テロ概論		必修/選択	選択
担当教員	千葉 正悦	担当教員連絡先	内線 3556	
単位数	1単位(前期)	履修年次	2年	
テーマと目的	テロまたは大規模災害に関係する生物・化学物質について理解する。			
講義計画	教科書および関連文献の抄読・解説			
達成目標	テロまたは大規模災害に関係する生物・化学物質を列挙し、その作用機序について説明することができる。			
教科書・参考書	必携 生物化学テロ対処ハンドブック			
準備学習(予習・復習・時間)	授業の最初に前の授業の小テストを行う。 1時間			
成績評価法	出席状況・態度および課題に対する口頭試験等による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)		後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	大規模災害と生物化学兵器テロの共通性		1	
2	化学剤の基礎知識(1)		2	
3	化学剤の基礎知識(2)		3	
4	生物剤の基礎知識(1)		4	
5	生物剤の基礎知識(2)		5	
6	起因物質の確認法(1)		6	
7	起因物質の確認法(2)		7	
8	医療関係者の対応(1) 除染と安全確保		8	
9	医療関係者の対応(2) 医療体制のあり方		9	
10	化学剤に対する医療処置(1)		10	
11	化学剤に対する医療処置(2)		11	
12	生物剤に対する医療処置(1)		12	
13	生物剤に対する医療処置(2)		13	
14	法医学的問題点		14	
15	まとめ		15	

講義担当者承認

Ⓢ